スプレー缶（エアゾール製品）の火災事故に注意しましょう！

今回のトピックス

2023年1月16日、当社管理物件外ですが、東京都港区六本木の7階建マンションで建物の中でスプレー缶（エアゾール製品）のガスを抜く作業中に爆発火災が発生し3名が負傷しました。

●エアゾール製品とは？

エアゾール製品とは、気化した液化ガスまたは圧縮ガスの圧力によって、内容物を容器の外に自力で霧状や泡状などにして放出させる製品（殺虫剤、化粧品、医薬品、塗料、消臭・芳香剤等）です。

●事故発生の流れ

16日午前10時45分ごろ、港区六本木の建物で「窓が割れて火が出ている」と所轄消防に通報があり、建物に入る不動産会社の従業員がスプレー缶のガスを抜く作業をしていたところ爆発が起きたとみられるということで、作業をしていた従業員2人と近くにいた建物の管理人の男性のあわせて3人が火傷などの怪我をしたということです。

●事故発生のポイント

一部の報道では、ガス抜き作業時にスプレー缶に『穴あけ作業』を行っていたとの記事がありますが、スプレー缶の廃棄をめぐって、環境省は「穴開けをしない方向が望ましい」とも呼びかけています。

また、処理を行う際は、屋外の火の気のない（屋内では静電気、給湯器の火に引火することもあります。）ところで、行うように徹底して下さい。

自現場でスプレー缶の廃棄方法について、明確な手順・ルールを定めていないのであれば、改めて『各自治体』、『廃棄部処理協力会社』に廃棄方法の確認を行い、本件のような事故防止に努めましょう。

次ページに『一般社団法人日本エアゾール協会』のスプレー缶廃棄に関わる情報を掲載しますので、ご参考にして下さい！

エアゾール缶は、必ず中身を使い切ってからごみ（資源）に出しましょう。

中身が残ったエアゾール缶をそのままごみ収集に出すと、
ごみ収集車やごみ処理施設での引火や破損事故の原因となり、大変危険です。

▶正しいごみへの出し方 4step!

（不要になったエアゾール・処分の仕方）

step 1 缶をカラにする ……▶ step 2 缶がカラになったか？確認する ……▶ step 3 ガス抜きキャップを使ってガスを抜く ……▶ step 4 ごみに出す

step 1 缶をカラにする

・製品を使いきって、缶をカラにする
・使いきれない場合は、中身を出して缶をカラにする

**どうしても缶を カラにすることができない時は、
商品に記載されて いるお客様相談室や販売元にお尋ねください。**

必ず
火気のない風通しの良い屋外で行う
近くの火気や静電気で引火することがあり危険

step 2 缶がカラになったか？ 確認する

・缶を振って音を聞いてみる
・中身が残っていると『シャカシャカ』『チャプチャプ』などの音がする
カラだと思っても･･･使用条件により、中身が少量残ることがある

step 3 ガス抜きキャップを使って、ガスを抜く

・製品に書いてある“ガス抜きキャップの使い方”をよく読む
「ガス抜きキャップ」がない場合は、ボタンを押してガスを完全に抜く
・火気のない風通しの良い屋外で作業する
屋内で中身を出すと、近くの火気や静電気で引火することがあり危険
・ティッシュや新聞紙などに吹き付けることで、周囲への飛散に配慮する

step 4 ごみに出す（「ガス抜きキャップ」を使った後）

・キャップ（ふた）や噴射のためのボタン等、プラスチックを分別する
容易に取り外せない場合は、無理して外さない
・ごみの出し方は、地域によって異なる
不燃ごみ・資源ごみ（缶類・金属類）など、分別の仕方を確認して、ルールを守りましょう。

「ガス抜きキャップ（中身排出機構、残ガス排出機構、ガス抜きボタン等）」について

〈ガス抜きキャップ使用の注意事項〉

●中身を完全に使い切ってから火気のない風通しの良い戸外で行う。
●中身が残っている製品で実施すると、可燃性ガスが多量に出て危険。
●屋内で実施すると、残っているガスが部屋にたまることがあり危険
※ティッシュや新聞紙などに吹き付けることで、周囲への飛散にご配慮ください。

「ガス抜きキャップ」の使用例

●使用方法の代表例を示したもので、下記以外にも商品の特性によりいろいろ工夫されており、キャップ・ボタン等の形状や特徴により排出方法も異なりますので、商品に記載された使用説明を必ずご覧ください。
●屋外の風通しの良い場所で中身及びガス抜きをしてください。
●図で示してある①→②→③の順をまもり、正しく排出してください。

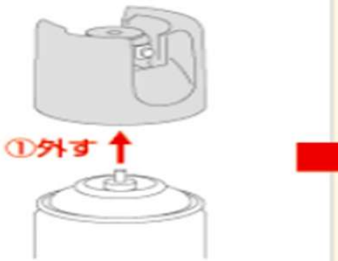
A キャップの天面のヘコミを使用するタイプ

例1

①キャップを外します。
②ボタンを外します。

③キャップ上面のヘコミにノズルを押し込みます。

例2

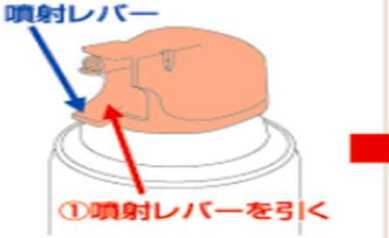


①キャップを外します。（ボタンも一緒に外れます）

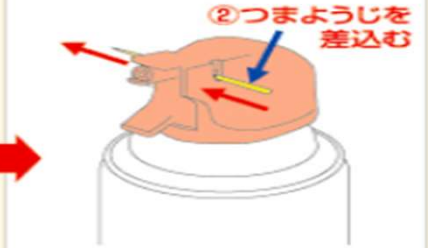
②キャップの下に新聞紙を敷き、キャップの先端の穴にノズルを差し込み缶を押し込みます。

B つまようじを使用するタイプ

例1



①噴射レバーを引いたまま、



②側面の孔につまようじを差込みレバーをロックさせます。

C コインを使用するタイプ

例1

①ボタン上部のガイドの下にコインなどを差し込みます。

②ボタンをロックさせます。

例2

①キャップを外します。

②ボタンカバーをコインなどで押し上げて外します。

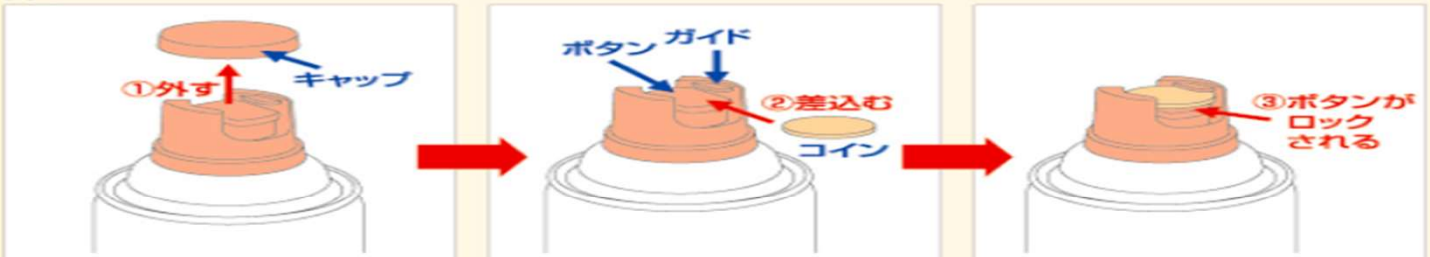
③キャップを押し込みます。

例3

①ボタン上部の溝にコインなどを差込みます。

②ボタンを下に押しながら回転させボタンを固定します。

例4



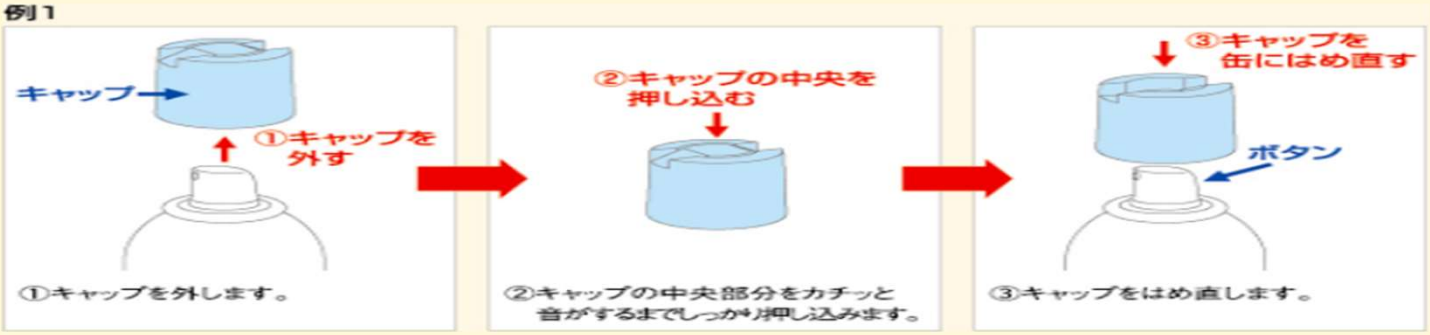
①キャップを外します。

②コインなどをガイドとボタンの間に差し込みます。

②ボタンをロックさせます。

D キャップの天面を押し込み／折り込み使用するタイプ

例1

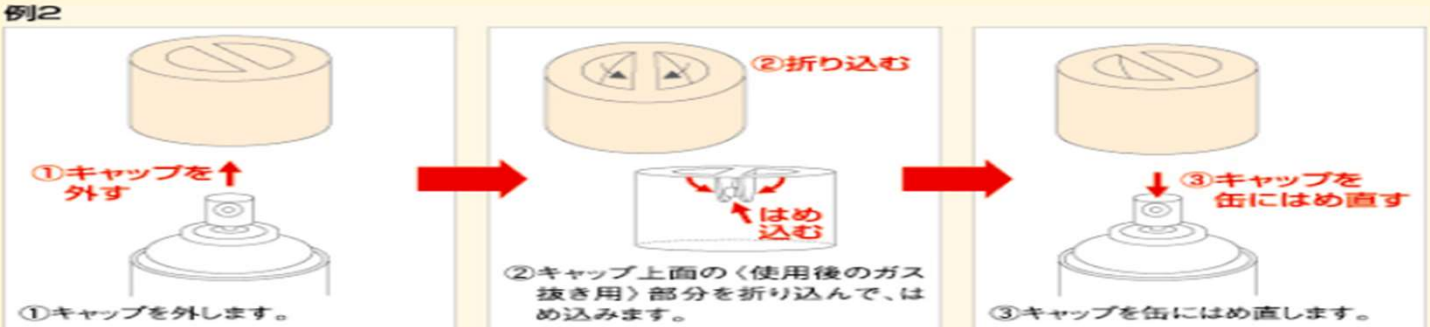


①キャップを外します。

②キャップの中央部分をカチッと音がするまでしっかり押し込みます。

③キャップをはめ直します。

例2



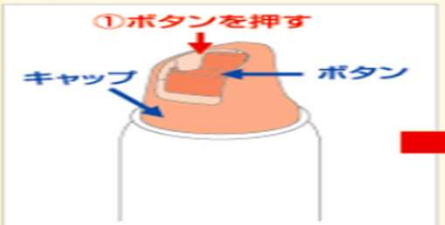
①キャップを外します。

②キャップ上面の〈使用後のガス抜き用〉部分を折り込んで、はめ込みます。

③キャップを缶にはめ直します。

E キャップの両面を押し込み使用するタイプ

例1



①ボタンを押したまま、

②キャップの両側を押して内側の溝に突起が入り、ボタンをロックさせます。

F キャップの向きを変えて使用するタイプ

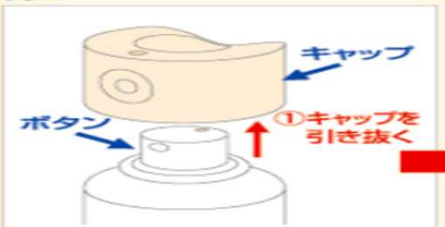
例1

①キャップを引き抜き、

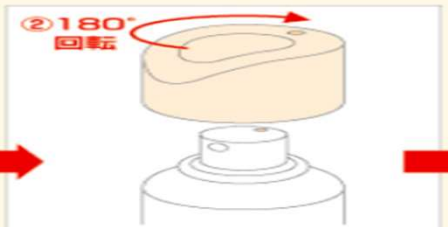
②キャップの向きを反転させ

③カチッとなるまでキャップを缶にはめ直します。

例2



①キャップを引き抜き、



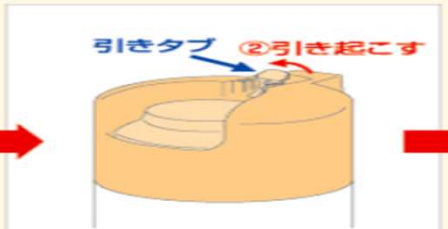
②キャップの向きを反転させます。

③キャップの丸印と、ボタンの丸印を合わせて、もとのようにキャップを缶にはめ込みます。

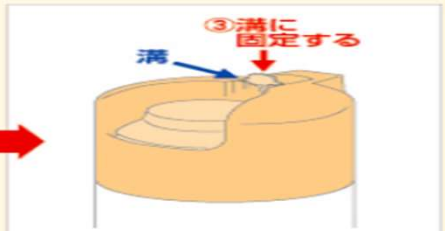
G タブやレバーで固定するタイプ

例1

①ボタンを押します。

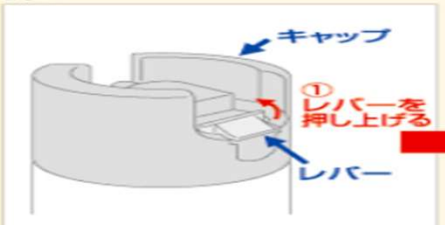


②引きタブを引き起こします。

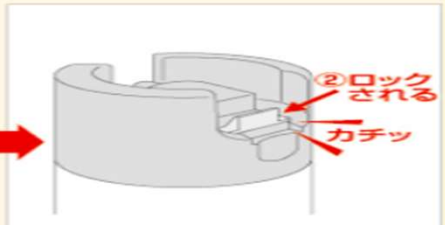


③側面の溝に固定します。

例2



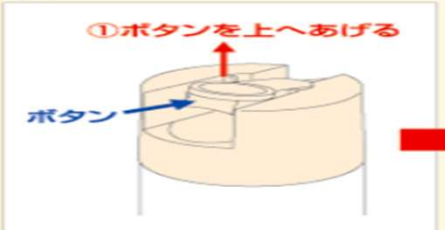
①キャップ後側にあるレバーを押し上げます。



②ボタンがロックされます。
（カチッとなります。）

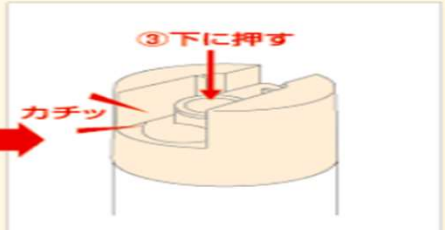
H その他のタイプ

例1



①噴射口後方のボタンを上へあげ、

②カチッとはまるまで前に押し出します。



③ボタンをカチッと音がするまで下に押し込みます。